

# 財団法人石川文化事業財団 平成 22（2010）年度事業報告書

## 第 1 章 法人の概況

### 1-1. 法人の沿革

- ・昭和 16 年 9 月 10 日、石川武美が図書館設立を目的として「財団法人文化事業報国会」を創設。
- ・昭和 22 年 11 月 28 日、法人名を「財団法人文化事業協会」に改称し、12 月 1 日、駿河台 2 丁目に女性専用図書館として「お茶の水図書館」を開館。
- ・昭和 35 年 3 月、法人名を「財団法人お茶の水図書館」と改称。
- ・昭和 40 年 12 月、駿河台 1 丁目に移転。
- ・昭和 53 年 3 月、法人名を「財団法人石川文化事業財団」と改称し、図書館事業部に加えて、文化事業部（昭和 57 年）、顕彰事業部（昭和 62 年）、生活文化研究所（平成 3 年）による 4 事業を展開。その後、平成 13 年までに図書館事業を中心とする 1 事業部に統合。
- ・平成 14 年 11 月、創設時の駿河台 2 丁目に移転。
- ・平成 15 年 10 月、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館として再開館。

### 1-2. 寄附行為に定める目的（「寄附行為」第 3 条）

この法人は、一般文化の向上を図り公益に資するを以て目的とする。

### 1-3. 寄附行為に定める事業内容（「寄附行為」第 4 条）

- (1) お茶の水図書館の経営
- (2) 学術研究及び文化の向上発展並びに普及に関する施設の経営
- (3) 家庭に必要な諸般の講習並びに講演会開催
- (4) 日本文化の海外紹介及び普及
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

【註】(1)(2)に基づく、公開専門図書館としての図書館事業は、平成 15 年 10 月より再開した。また、(3)(4)に基づく文化事業として、お茶の水図書館の資料を活用した出版事業及びセミナー等の開催を実施した。

### 1-4. 所管官庁に関する事項

文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課

## 1-5. 事業所の所在地

東京都千代田区神田駿河台二丁目 9 番地

## 第 2 章 事業部及び事務局の活動

### 2-1. お茶の水図書館の運営

お茶の水図書館は、私立の女性専用公開公共図書館から、専門図書館へ転身を図り、平成 15 年 10 月にリニューアル・オープンした。当館は、「女性・生活・実用」をテーマとする専門図書館部門と、古典籍・古文書部門から成っている。以下、部門別に事業活動の詳細を報告する。

#### (1) 専門図書館部門

専門図書館部門の蔵書の中核は、近現代の日本の女性雑誌群である。これまで日本の図書館界では、雑誌の資料価値を低く捉えてきた傾向があり、原資料そのものを保存してこなかったという経緯がある。近年、公立公共図書館でも雑誌を収集・保存していく方針が新たに打ち出されるなど、雑誌への評価が高まっている。

当館ではこのような動きに先行して、すでに昭和 50 年代から、とくに女性雑誌の収集・保存に努めてきた。さらに、専門図書館化してからは、近現代の日本の女性雑誌のバック・ナンバーも集中的に収集している。

明治期以降の女性雑誌の発行点数は膨大であり、それらの出版状況の全容はいまだ明らかにされていない。当館は、こうした原資料を所蔵する図書館として注目されてきており、これらの女性雑誌を調査・研究する利用者を、全国各地、海外から迎えている。こうした利用を受け、当部門では、近現代の日本の女性雑誌を所蔵する専門機関として重要な役割を担うべく、さらなる収集・保存・利用提供に力を入れていく方針である。

また、当館は、戦前から現在に至る図書資料も多数所蔵している。約 2 万 7 千冊に及ぶこれらの図書資料群を基盤として、今後さらに、関連テーマの図書資料を収集し、蔵書を充実させていくことに努める。

#### ① 資料の収集と整理業務

##### ①-a. 雑誌の収集と整理

平成 22 年度の新刊和雑誌の増加分は、継続誌 214 タイトル、創刊誌 9 タイトル、合計 223 タイトル・2,344 冊であった。このうち、各出版社からの寄贈分は約半数にあたる 107 タイトル・合計 1,049 冊であった。

また、洋雑誌の増加分は継続誌 20 タイトル・248 冊であった（洋雑誌はすべて購入分である）。

さらに、当部門では明治期以降の女性雑誌のバック・ナンバーの欠号補充をおもな目的として、既刊雑誌も集中的に購入している。その数は 1 年間で 181 タイトル・1,570

冊にのぼった（このうち新たに蔵書に加わったのは 25 タイトルである）。既刊雑誌の収集にあたっては、古書店発行の目録だけでなく、インターネットを積極的に利用した。

以上により、平成 23 年 3 月末で、当館が所蔵する雑誌の総タイトル数は、1,347 タイトル（和雑誌 1,255 タイトル、洋雑誌 92 タイトル）、総冊数 90,862 冊（和雑誌 72,914 冊、洋雑誌 17,948 冊）となった。

#### ①-b. 図書の収集と整理業務

当部門では、「女性・生活・実用」をテーマとして、新刊書籍のほかにも、実用書や社史等の古書の選書にも力を入れている。平成 22 年度の図書の受入冊数は 465 冊である。その内訳は、購入分 378 冊、寄贈分 87 冊（主婦の友社からの寄贈 77 冊を含む）であった。

以上の結果により、平成 23 年 3 月末で当館が所蔵する図書の総冊数は 27,674 冊となった。

### ② 閲覧業務（雑誌・図書の利用状況）

#### ②-a. 入館者及び利用概況

平成 22 年度の入館者総数は 929 名（女性 769 名・男性 160 名）であった。これらの中には、海外からの来館者 11 名が含まれている。その内訳は、アメリカから 5 名（うち 1 名は日本人）、韓国から 3 名（うち 1 名は日本人）、ドイツから 2 名、イギリスから 1 名である。利用目的のほとんどが、修士論文、博士論文の執筆のための調査・研究であった。男性の数は、平成 20 年度、21 年度並みの、入館者総数全体の約 17% であり、当館における「女性・生活・実用」をテーマとする男性研究者の利用が定着しつつあることがわかる。

#### ②-b. 雑誌の館内利用

平成 22 年度の雑誌バック・ナンバーの利用件数は 2,244 件、800 タイトル・10,295 冊であった。利用が多かった雑誌バック・ナンバーの上位 20 タイトルを次ページの表にまとめた。

なお、『主婦之友』（大正 6 年創刊）のバック・ナンバーは、全冊、開架式で利用に供しているため、この表には含まれていないが、利用頻度では最上位である。

一方、『主婦之友』の付録は、他の雑誌バック・ナンバーと同様に閉架式であり、その利用状況は統計からつかむことができる。近年、同誌の付録のみの利用も着実に増えており、平成 21 年度の 20 位に続き、平成 22 年度は 15 位に入った。

#### ②-c. 複写（コピー）利用

コピーの件数は 798 件、枚数は 14,894 枚（雑誌 14,337 枚、図書 557 枚）であった。当館のコピー利用の約 7 割が学術的な調査・研究を目的としていることがわかった。これらの調査・研究テーマについては、「②-e.」で後述する。

＜平成22年度に利用が多かったタイトル（バック・ナンバー請求冊数ベスト20）＞

	タイトル	冊数	創刊年	備考（利用が多かった年代）
1	Vogue（フランス版）	580	（1950年から所蔵）	1950～1960、1970年代
2	婦人画報	459	明治38(1905)	明治38年～昭和10年代
3	ノンノ	406	昭和46(1971)	昭和46年～現在
4	Vogue（アメリカ版）	384	（1935年から所蔵）	1990年代
5	キャンキャン	368	昭和57(1982)	昭和57年～現在
6	婦人倶楽部	336	大正9(1920)	大正9年～昭和30年代
7	エッセ	327	昭和61(1986)	昭和61年～現在
8	アンアン	292	昭和45(1970)	昭和45年～現在
9	婦人公論	267	大正5(1916)	大正5年～昭和30年代、平成以降
10	ハナコ	209	昭和63(1988)	昭和63年～現在
11	三越カタログ	192	大正13(1924)	昭和10年代
12	ケラ！	188	平成11(1999)	平成11年～現在
13	女性自身	177	昭和33(1958)	昭和33年～40年代、平成以降
14	モア	171	昭和52(1977)	昭和52年～現在
15	主婦之友付録	166	大正6(1917)	大正15年～昭和60年代
16	婦人之友	156	明治41(1908)	明治41年～昭和10年代
17	週刊女性	149	昭和32(1957)	昭和39年～50年代、平成以降
18	少女の友	145	明治41(1908)	明治44年～昭和10年代
19	ジェイジェイ	144	昭和50(1975)	昭和50年～現在
20	クロワッサン	136	昭和52(1977)	昭和52年～62年、平成21、22年

②-d. 図書の館内利用及び館外貸出

平成22年度の館外貸出の登録者は33名、登録者数の累計は385名となった。貸出人数79名、貸出冊数は223冊であった。

平成21年度と同様に、平成22年度は、雑誌と図書を併用した調査が顕著であった。特定の雑誌（タイトル・月号）を目指して来館した研究者に対し、同時代の他の雑誌や図書を紹介することによって、研究者の調査対象が広がり、新たな利用につながるケースが多い。

また、雑誌を調査する過程で、それらの時代背景や出版状況をつかむために、出版関連の社史、女性雑誌の研究書を利用するケースが目立った。

以上の利用状況を次ページにまとめた。

<平成22年度 利用状況>

件名	総数	利用規程
入館者数	929名 (女性：769名) (男性：160名)	入館料：1回 300円(税込み)
複写枚数	14,894枚 (モノクロ：12,996枚) (カラー：1,898枚)	料金：モノクロ 50円(税込み) カラー 120円(税込み)
雑誌バック・ ナンバー出納	件数：2,244件 冊数：10,295冊 タイトル数：800タイトル	1回の出納冊数：12冊以内 (1日の回数制限なし)
図書資料貸出	登録者数：33名(累計385名) 総冊数：223冊 人数：79名	登録：無料 期間：5日間(継続可) 冊数：5冊まで

②-e. 調査・研究テーマ

平成21年度と同様に、複写サービスを受けた利用者の約7割が学術的な調査・研究を理由とし、このうちの半数以上が「論文執筆」を目的としている。

女性雑誌が扱うテーマ・内容そのものが多岐にわたっていることに関連して、利用者の調査・研究テーマも広範囲に及んでいる。また、明治期から続く『婦人画報』『婦人之友』だけでなく、『アンアン』『ノンノ』『キャンキャン』『ジェイジェイ』に代表される昭和期後半以降に創刊された雑誌が、論文執筆のための調査対象として定着した。

おもな調査・研究テーマを、「卒業論文」「修士論文」「博士論文」「海外研究者の論文」「『主婦の友』を対象とした調査・研究」の順で、以下に紹介する。

<卒業論文テーマ>

女性雑誌の表紙の変遷：『主婦之友』の表紙を中心に／女性雑誌の読者欄に見る「女性語」／中原淳一の洋服デザインの戦前・戦後の変化／『キャンキャン』におけるOLファッションの紹介の変化と分析：女性の社会進出との関連から／下着の歴史における“時代を象徴する女性像”／子供服に見る“子ども”観の変化／1980～2010年代における日本人女性の化粧に対する意識の変遷：『ジェイジェイ』を中心に／日本食文化における“お弁当”の歴史／華族の生活実態／明治初期における肉食消費の展開／『ジェイジェイ』『Seventeen』等の広告に見る瘦身意識の日米比較／フランス雑誌における広告表現／アメリカの雑誌広告に見る女性像の変遷／1960年代のイギリス雑誌に見る女性の社会進出

<修士論文テーマ>

『主婦之友』付録に見る衣生活の変遷／昭和戦前期の日本女性の服装観／近代日本における食行動の変遷：雑誌で紹介された食卓風景を中心に／現代女性の「恋愛」「家族」等のコミュニケーションに関する雑誌記事／大正期『主婦之友』に見る家庭教育：大正期新中間層の教育意識／昭和初期の東京における若者の余暇／戦中期における戦死者遺族に対する援護／柿内青葉(日本画家。1892～1982)の画風形成

### ＜博士論文テーマ＞

婦人雑誌ジャーナリズムと石川武美／「全国友の会」組織研究：『婦人之友』の愛読者会活動を中心に／日本における台所の近代化／澁澤龍彦が形成した文化圏：ジェンダー・セクシュアリティからの解明／『アンアン』に見る日中関係とパンダの流行／堀辰雄と「少女趣味」

### ＜海外研究者の論文テーマ＞

『主婦之友』に見るアメリカ女性雑誌の影響／日本の婦人雑誌に見る朝鮮観／住宅の近代化に関する日韓比較／明治・大正・昭和における“時間”管理の変化／近代日本における着物の国際化／吉屋信子の人生と作品／明治期の女性運動史・女性文学史／戦時中のプロパガンダ雑誌に見る女性像／明治期における初期社会主義と東京の下町文化／江戸後期歌人・黒澤登幾子（くろさわときこ。1806～1890）研究／ミシンの研究：明治末期から昭和初期の女性雑誌におけるミシン広告を中心に／昭和10年代の婦人雑誌におけるハンセン病文学

### ＜『主婦の友』を対象とした調査・研究＞（前項までの調査・研究テーマで記載済みのものを除く）

石川武美と女性観／大正期の模範家庭像／戦前における台所と台所用品／昭和戦前期の出産と子育て／特集テーマに“家の片づけ”が採り上げられた嚆矢／洗剤の広告の変遷／子どもの弁当の変遷／進駐軍の家庭における日本人メイド／大正期の女中の役割／1945年の生活改善運動／化粧品会社・中山太陽堂の雑誌広告の変遷／キリスト者・主婦としての三浦綾子の執筆活動／柳原白蓮（歌人。1885～1967）研究／戦前の女子教育／“病弱教育”史／美術史を中心とした豊島区史／蒔谷虹児のフランス留学と作風

## ③ レファレンス（相談・参考）業務

平成22年度も、利用者と積極的なコミュニケーションを図り、レファレンス業務を遂行した。当館には、すでに研究テーマを持ち、他機関での調査を済ませてから来館する利用者が多くみられる。こうした利用者から質問や相談を受け、当館では、所蔵資料の有無や関連情報を回答したり、適切な調査対象資料（群）や調査手法を紹介したりしている。これらの業務が、利用者には未知の資料や新たな情報の発見となり、研究テーマの広がりや絞り込みにもつながっている。

年間のレファレンス件数は43件である。テーマ別に見ると、「雑誌・出版・広告」14件、「服飾文化・ファッション・美容」9件、「住まい・暮らし」2件、「料理・食文化」3件、「女性」2件、「人物研究」9件、「その他」4件であった。

以下に、おもだったレファレンスのテーマを紹介する（前項の「②-e. 調査・研究テーマ」と重複するものは外した）。

### ③-a. 雑誌・出版・広告

『主婦之友』満州版のように、戦時中、朝鮮版が出された国内雑誌の有無／『主婦之友』満州版の表紙に押された“CIS G2 SPECIAL ACTIVITIES”（GHQ民間諜報局参謀第2部）のスタンプ印の意味／服部圭子（女性雑誌記者）が主婦の友社に在籍していた時期／『レディス』の発行所であるL・C校友会（レディス洋裁学院内）の所在地／「女

子体力章検定」の記事を収載した女性雑誌の有無／歌手マドンナが表紙に掲載された『Cosmopolitan（アメリカ版）』の所蔵の有無

### ③-b. 服飾文化・ファッション・美容

『主婦之友』付録に型紙が採用された嚙矢／近代日本服装史の比較文化論的アプローチ／明治 30 年代の着物に見る元禄模様と戦争柄／昭和 40 年代の洋裁雑誌の出版状況／“コッポ編み”（レース編みの一種）／1970 年代のパリコレクションに出品したブランド／女性雑誌に見る近代の化粧の変遷／近代日本の洋裁学校の歴史／大正時代の子供服の製作資料

### ③-c. 住まい・暮らし

近代日本における家計簿の嚙矢と雑誌の“付録家計簿”の歴史／大正期『主婦之友』に掲載された石橋湛山（経済評論家・政治家）の住居に関する記事

### ③-d. 料理・食文化

近代日本における紅茶の普及過程／楽満斎太郎（明治・大正期の料理人）の著作／昭和 40 年代の『主婦の友』料理カードで紹介された「牡蠣めし」のレシピ

### ③-e. 女性

戦前までの主婦に期待された役割／近代日本の女子体育におけるダンス教育

### ③-f. 人物調査・研究

『主婦之友』に掲載された日本初のエレベーターガールに関する記事／長屋美代（日本初のロシア料理店店主）／小幡恵津子（元資生堂美容部長）／『婦人公論』に掲載された豊田正子（「綴方教室」の著者）の記事／『主婦之友』に掲載された小島政二郎（作家）の作品／八重樫君子（元主婦の友社婦人記者）／昭和 6 年の『婦女界』に連載された「棚橋絢子刀自伝」

### ③-g. その他

『主婦之友』に掲載された孤児院・福田会（ふくでんかい）に関する記事／『主婦の友』連載小説の全容／昭和 10 年代の洋菓子の書籍の装丁（映画小道具の製作のため）

## ④ 研究者・研究機関等からの寄贈

平成 22 年度は、当館における調査・研究の成果をまとめた論文・出版物の寄贈が 5 件あった。おもなものを以下に列挙する。

- ・「<主婦>の誕生：婦人雑誌と女性たちの近代」（吉川弘文館、平成 22 年刊）（著者は大阪大学大学院人間科学研究科教授）
- ・論文「川上澄生の青年時代：『主婦之友』誌の表紙案から」（「川上澄生木版画の世界：古今東西をあそぶ」〔世田谷美術館／栃木県立美術館、平成 22 年刊〕に収載）（著者は栃木県立美術館主任学芸員）

- ・コラム「津市が生んだ日本で女性二番目の医学博士井出ひろ」（津市男女共同参画情報紙『つばさ』第8号〔平成22年刊〕に収載）（著者は「三重の女性史研究会」会員）

この他のおもな寄贈は以下のとおりである。

- ・論文「帝国の出版メディア統制：『新刊弘報』の分析からみるその活動実態」（『日本學』第31輯〔東国大学校文化学術院日本学研究所、平成22年刊〕に収載）（著者は名古屋大学大学院博士課程）
- ・「白蓮：娘が語る母燐子」（旧伊藤伝右衛門邸の保存を願う会、平成19年刊）、「香織とともに眠る石老山・顕鏡寺：私の白蓮だより7」（『月刊嘉麻の里』290号〔プランニングエン、平成21年刊〕に収載）等（著者は福岡県飯塚市在住の白蓮研究家）
- ・「占領下 女性と雑誌」（ドメス出版、平成22年刊）（著者は「近代女性文化史研究会」）

さらに平成22年度は、当館の利用者から手芸雑誌『キルトジャパン』『パッチワーク通信』のバック・ナンバー177冊と、『主婦の友』の読者から昭和20年代の実用書12冊の寄贈を受けた。

## ⑤ 資料保存対策

当館では、「現在と未来の利用を保証する」という使命のもとで、全館的な「利用のための資料保存」対策を実施し、書庫の温湿度管理など、保存環境の整備に努めている。

平成22年度は猛暑の影響を受け、1階雑誌保存書庫に収蔵した資料の一部にカビが発生したことが判明した。このため、カビの除去作業と合わせて書庫全体のクリーニングを実施した。また、古典籍・古文書部門とともに、各階書庫の温湿度測定値を一覧表に記録することを実施し、温湿度の変化等を全館的に把握できるようにした。

このほかのおもな対策は、以下のとおりである。

### ⑤-a. 雑誌のドライクリーニング（ちり・ホコリ除去）

女性雑誌の集中購入によって新たに受け入れる既刊雑誌を対象に、それらの表紙・小口のちり・ホコリを拭き取る作業（ドライクリーニング）を、日常業務の一環として実施した。その数は年間で3,713冊であった。

### ⑤-b. 女性雑誌を対象とする、劣化した針金の除去と綴じ直し

針金綴じ製本された女性雑誌のバック・ナンバー（15タイトル・1,870冊）を対象として、劣化した針金の除去と綴じ直し作業を専門業者に依頼した。

### ⑤-c. 図書の修理

資料の状態と利用頻度を勘案しながら、劣化・破損した図書・雑誌を対象に、日常業務の中で適切な修理を施した。とくに、利用者が直接手に取ることができ、利用頻度が高い、閲覧用『主婦の友』バック・ナンバーの破損・劣化資料、約数十冊の修理に力を入れた。



## (2) 古典籍・古文書部門

当館の活動のもう一つの大きな柱となる古典籍・古文書部門では、約7万点冊の成篁堂（せいきどう）文庫と、約660タイトル（約2,000点冊）の竹柏園（ちくはくえん）本の資料群を所蔵している。これらの資料群は、当館の創設時に設立者・石川武美が購入したものである。成篁堂文庫は、ジャーナリスト・言論家であった徳富蘇峰が、明治から昭和戦前にかけて収集した個人コレクションである。一方の竹柏園本は、国文学者の佐佐木信綱が所蔵していた万葉集関連の貴重書である。

### ① 整理業務

平成22年度も2種類のデータベース作成・入力作業を継続して行ない、277件の閲覧データ（累計2,073件）、84件の寄贈資料データ（累計660件）を入力した。

### ② 閲覧業務

平成22年度の閲覧者数は52名（延べ人数71名）、閲覧資料点数は120点（延べ点数139点）であった。

#### ②-a. 閲覧者の内訳

閲覧者52名（延べ人数71名）の内訳は以下のとおりである。

- ・教職者：23名（延べ人数25名）（うち中国人1名、韓国人2名）
- ・学生：6名（延べ人数10名）（うち中国人2名、韓国人2名）
- ・国公立・私立機関の研究者等：20名（延べ人数23名）（うち中国人1名）
- ・一般研究者：3名（延べ人数13名）

#### ②-b. 閲覧資料点数の内訳

閲覧資料120点（延べ点数139点）の内訳を記す（実数と延べ点数が同じ場合は実数のみ表記）。

<成篁堂文庫> 111点（延べ122点）

□古典籍59点（延べ69点）

- 『新修成篁堂文庫善本書目』収載分50点（延べ55点）

古写本（奈良から江戸）22点（延べ25点）／古活字版2点／江戸初期版本11点（延べ13点）／自筆本2点／唐本（宋・明版）8点／朝鮮本3点／小笠原本2点

- 『新修成篁堂文庫善本書目』未収載分9点（延べ14点）

近世写本4点（延べ8点）／近世版本1点／近代写本1点（延べ2点）／朝鮮本1点／複製本2点

□古文書48点

□洋書4点（延べ5点）

<竹柏園本> 9点（延べ17点）

## ②-c. 閲覧資料名及び目的

閲覧資料名と閲覧目的の一部を以下に記す。

### <成篁堂文庫>

#### □ 古典籍

##### ● 『新修成篁堂文庫善本書目』 収載分

##### 【古写本（奈良から江戸）】

- ・『文選集注卷十六（残簡）』（1軸、平安中期写）：六朝文学の研究
- ・『碧巖録抄』（3冊、室町末期写）・『閑葛藤』（1冊、室町極末期写）等：中世臨済宗公案禅の研究

##### 【古版本（五山版）・江戸初期版本】

- ・『禪門寶訓集』（2冊、弘安10年刊）・『佛光禪師語録』（4冊、南北朝頃刊）等：五山版の書誌的研究（4名での共同閲覧）
- ・『花上集』（1冊、寛永8年刊）等：五山文学版『百人一首』及び『花上集』の校本作成のための調査（延べ2日間）

##### 【古活字版・近世版本（寛永板ほか）】

- ・『保元物語』（3冊、元和4年刊）・『平治物語』（3冊、元和4年刊）：古活字版を中心とする近世初期刊本の書誌学的研究
- ・『松花堂画譜』（1冊、文化2年刊）：松花堂昭乗の芸術に関する研究、特に『松花堂画帖』の出版状況についての調査・研究

##### 【自筆本】

- ・『廣瀬家書簡』（1軸、江戸中期～末期写）：『大分県先哲叢書廣瀬淡窓篇』編纂のための調査
- ・『北馬手本』（1冊、江戸末期写）：蹄齋北馬（葛飾北齋の弟子）の画業調査

##### 【唐本（宋版・元版・明版）】

- ・『歐陽文忠公集』（10冊、宋刊）・『詩宿』（60冊、明中期刊）等：明代出版史研究のための書誌資料収集
- ・『石林和尚語録』（2冊、元至正8年刊）：日本中世五山における中国文学の受容についての研究

##### 【朝鮮本】

- ・『世説新語姓彙韻分』（6冊、朝鮮古刊）・『世説新語補』（5冊、朝鮮明万暦14〔序〕刊）：日本近世学芸史（明清漢籍受容史）の研究
- ・『新刊補註釋文黄帝内經素問卷二』（1冊、朝鮮古刊）：朝鮮刻本黄帝内經素問の所在確認及び書誌学的研究（2名での共同閲覧）

##### 【小笠原本】

- ・『小笠原少齋忠死一件附少齋自筆書状』（1冊・附4通、江戸末期写）：織豊期政治史の研究（2名での共同閲覧）
- ・『大草家書』（1冊、江戸中期写）：室町幕府根本被官である大草氏の研究（奉公衆と御祝方の庖丁の両面からの調査）

●『新修成篋堂文庫善本書目』未収載分

【近世写本】

- ・『龍光開山虎伯和尚見聞集』(1冊、寛文9年写)：大仙虎伯の行実の調査・研究(延べ5日間)
- ・『古筆流儀要覧』(1冊、江戸中期写)：古筆切伝来の研究

【近世版本】

- ・『弘決外典鈔』(2冊、宝永6年刊)：徳富蘇峰が影印刊行した『弘決外典鈔』の意義と、以後の学会に与えた影響に関する調査

【近代写本】

- ・『身延山本弘決外典鈔 付校勘』(5冊、昭和3年写)：『弘決外典鈔』の基礎的考察

【朝鮮本】

- ・『臥遊帖(金剛山雜記)』(2冊、朝鮮写)：研究論文作成のための調査(3名での共同閲覧)

【覆製本】

- ・『金澤稱名寺本弘決外典抄(焼付写真張込帳)』(3冊、昭和2年撮影)・『弘決外典鈔(コロタイプ覆製)』(5冊、昭和3年刊)：徳富蘇峰が影印刊行した『弘決外典鈔』の意義と、以後の学会に与えた影響に関する調査

□古文書

- ・『豊臣秀吉朱印定書』(1通、天正19年写)・『浅井長政書状』(片桐文書)(1通、元亀4年写)・『豊臣秀次知行目録』(片桐文書)(1通、天正18年写)等の古文書43点43通：科学研究費助成「豊臣政権の政治構造に関する文書学的研究」の推進のための調査(4名での共同閲覧)
- ・『楠木正儀安堵状』(山城文書)(1通、正平9年写)・『楠木正儀下知状』(山城文書)(1通、正平9年写)・『河俣御厨庄早田内検取帳』(1軸、文明4年写)：河内水走氏や摂津渡辺党に関する河内国の中世史研究

□洋書

- ・『An English and Chinese Lexicon(字典集成)』(1冊、1868年刊)：19世紀の英華辞典の研究
- ・『Emerson and Asia』(1冊、1930年刊)・『Pragmatism』(1冊、1909年刊)・『The will to believe』(1冊、1897年刊)：徳富蘇峰の思想形成についての研究

<竹柏園本>

- ・『西本願寺本萬葉集』(20帖、鎌倉末期写)の内、卷十一・十二・十三のカラーポジフィルム：西本願寺本万葉集の書誌学上の調査(虫喰い穴・水染み等の痕跡の確認)
- ・『仙覚奏状』(1軸、鎌倉末期写)：仙覚の万葉学の受容と継承の研究
- ・『萬葉集金砂子切』(1幅、平安末期写)・『萬葉集尼崎本切(卷十二残簡)』(1幅、鎌倉初期写)ほか：万葉集の伝本及び古筆切の研究
- ・『萬葉集漂柱』(1冊、昭和4年写)・『萬葉集種々考』(1冊、昭和初期写)ほか：万葉集解説書・研究書の諸本調査

### ③ 目録編纂のための調査

成笈堂文庫が所蔵する古典籍資料の目録編纂を目的として、平成 22 年度も引き続き、柳田征司先生（前奈良大学文学部教授、財団法人阪本龍門文庫理事、当財団理事）に調査を依頼した。

故川瀬一馬先生の調査カードの記述と原本の確認作業はほぼ終了し、調査開始（平成 19 年 8 月）以降の調査済み点数は 8,450 点になった。調査対象の内訳は、「国書」7,020 点（近世写本 1,600 点・近世版本 3,050 点・寛永整版 300 点・木活字版 290 点・近代写本 370 点・近代刊本 1,410 点）、「唐本」960 点、「朝鮮本」340 点、「その他」（古文書・拓本・複製本等）130 点である。

平成 22 年度は、調査済み資料のうち「国書（近代資料を除く）」5,240 点を対象に、分類・配列作業を開始した。これらの作業は内閣文庫の分類・配列をベースとし、大東急記念文庫、大英図書館、静嘉堂文庫の各目録も参考にした。原則として、対象となるすべての原本に当たり、内容を把握した上で、分類・配列を行なった。

この結果、平成 22 年度末までに、「国書」1,140 点の分類・配列作業が終了した。その分野は、「01 総記」「02 神祇」「04 言語」「06 音楽・演劇」「08 地理」「10 経済」「11 教育」「12 理学」「13 医学」「14 産業」「15 芸術」「16 諸芸」「17 武学・武術」であった。作業途中の「07 歴史」をはじめ、「03 仏教」「05 文学」「09 政治・法政」は平成 23 年度以降に着手する。

なお、柳田先生のご調査と並行して、調査後の訂正データの入力作業を、職員が平成 20 年 6 月から開始している。平成 22 年度は、「国書」（「近世写本」「近世版本」）「朝鮮本」「唐本」5,850 点の入力が終了した。

### ④ 写真掲載・翻刻掲載・放映への協力

古典籍・古文書の写真掲載・翻刻掲載・放映に関する 38 件（成笈堂文庫資料 26 件、竹柏園本資料 12 件）の申請を受け、それぞれの出版・展示事業等に協力した。その内訳は、写真掲載 27 件（成笈堂文庫 17 件、竹柏園本 10 件）、翻刻掲載 9 件（成笈堂文庫 8 件、竹柏園本 1 件）、放映 2 件（成笈堂文庫 1 件、竹柏園本 1 件）であった。

使用目的は、書籍、雑誌、論文集への掲載や、展示パネル作製、テレビ番組の制作などであった。

#### ④-a. 写真掲載

##### <成笈堂文庫>

『信長・義昭 五か条の条書』（永禄十三年正月廿三日付）6 件、『浅井長政書状』（片桐文書）（元亀四年八月廿九日付）2 件、『維摩経巻中』（奈良朝写）、『新雕大唐三蔵法師取経記』（宋刊）など、合計 17 件（滋賀県立安土城考古博物館、KK ベストセラーズ、平凡社、春秋社、塙書房など）

##### <竹柏園本>

『西本願寺本萬葉集』10 件（吉川弘文館、角川学芸出版、ぎょうせい、佐賀県三養基郡基山町町史編さん室、石川県七尾市教育委員会市史編さん室など）

#### ④-b. 翻刻掲載（全文ではなく一部翻刻のみ）

##### <成篁堂文庫>

『宝永刊本弘決外典鈔』中の徳富蘇峰の書入れ、『梅尾明恵上人傳記』、『豊臣秀頼黒印状』（堀尾文書）など、合計 8 件（汲古書院、笠間書院、松江歴史館など）

##### <竹柏園本>

『萬葉集漂柱』1 件（浜松史蹟調査顕彰会）

#### ④-c. 放映

##### <成篁堂文庫>

『浅井長政書状』（片桐文書）1 件（NHK エンターテインメント）

##### <竹柏園本>

『西本願寺本萬葉集』1 件（NHK 大阪放送局）

#### ⑤ 研究者・研究機関等からの寄贈

平成 22 年度に受領した寄贈資料は 84 点である。このうち、当館が所蔵する古典籍・古文書を調査・研究した成果をまとめた出版物、論文等の寄贈資料のほか、関係者・関係機関から寄贈を受けた資料の一部を、以下に記す（刊年はすべて平成 22 年）。

- ・論文『『和名集并異名製劑記』の諸版とその変容』（『近代語研究 第 15 集』に収載）（武蔵野書院）
- ・論文「日中戦争前における徳富蘇峰の日米親交論：1933－1937」（『法学研究 第 83 巻第 4 号』に収載）（慶應義塾大学法学会）
- ・論文「伊勢物語歌がるた小考」（『伊勢物語 享受の展開：伊勢物語 成立と享受 2』に収載）（竹林舎）
- ・論文「北京大学図書館蔵余嘉錫校『弘決外典鈔』について」（『汲古 第 58 号』に収載）（汲古書院）
- ・論文「西本願寺本万葉集卷十二の再検討」（『萬葉集研究 第 31 集』に収載）（塙書房）
- ・『英華辞典の総合的研究：19 世紀を中心として』（白帝社）
- ・『万葉集 隠された歴史のメッセージ』（角川学芸出版）
- ・『運慶 時空を超えるかたち』（別冊太陽 日本のこころ 176）（平凡社）
- ・『近江日野の歴史 8 巻 史料編』（滋賀県蒲生郡日野町教育委員会町史編さん室）
- ・『室町最後の将軍 足利義昭と織田信長：平成 22 年度秋季特別展図録』（滋賀県立安土城考古博物館）

#### ⑥ 資料保存対策

当館では全館的に「利用のための資料保存」対策を講じているが、当部門における平成 22 年度の具体策は、以下のとおりである。

##### ⑥-a. 貴重書庫の温湿度管理

平成 21 年度に引き続き、貴重書庫内の温湿度の変動幅を、1 日・1 週間・1 年単位で調査し、記録した。さらに、時間帯や季節により、試験的に空調を稼働させ、温湿度の変動幅をどれくらい制御できるかを調査した。

#### ⑥-b. 保存手当

破損の激しい資料を保存用封筒に入れる等の保存手当を日常業務の中で行なった。

#### ⑥-c. 閲覧時の資料の適切な取り扱い

長尺の卷子本や、劣化・破損した資料の閲覧の際には、職員が資料の取り扱いを補助しながら、適切な取り扱いについて閲覧者へ説明した。

### (3) 職員研修及び教育

#### ① 研究会、講演会、見学会への参加

##### <平成 22 年>

- ・ 5 月：新日本有限責任監査法人「公益法人セミナー」
- ・ 6 月：専門図書館協議会（以下、専図協）全国研究集会
  - ：東京大学東洋文化研究所「はじめての漢籍セミナー」
  - ：専図協全国研究集会拡大ワーキンググループ会議
  - ：東京古書会館「明治の愛しき雑書たち」展示及び黒岩比佐子氏講演会
- ・ 7 月：野村證券「一般社団・財団法人セミナー」
  - ：東京国立博物館「中国文明展」内覧会
  - ：「東京国際ブックフェア」
  - ：新日本有限責任監査法人「公益法人会計講座」
  - ：日興コーディアル証券「公益法人セミナー」
- ・ 8 月：日本図書館協会平成 22 年度全国研究集会ワーキンググループ統括会議
  - ：公益法人協会「会計実務セミナー」
- ・ 9 月：国立国会図書館「国民読書年記念 ロジェ・シャルチェ講演会」
  - ：専図協「米沢嘉博記念会図書館見学会」
- ・ 10 月：石橋財団ブリヂストン美術館「セーヌの流れに沿って展」内覧会
  - ：東京国立博物館「東大寺大仏展」内覧会

##### <平成 23 年>

- ・ 1 月：専図協「平成 23 年新春講演会・賀詞交歓会」
- ・ 2 月：専図協「国立国会図書館レファレンス協同データベース活用説明会」
  - ：全国公益法人協会「公益法人課税に係る総合税務対策特別講座」

#### ② 専門分野教育

当館には近現代の資料（雑誌・図書）、古典籍・古文書のほかに、美術資料や博物館の資料も数多く所蔵している。こうした資料の整理、提供、保存に携わるために、それぞれの資料に関する、より高度な専門的知識と技術を習得するように努めた。

## 2-2. 文化事業の実施

### (1) 平成22年度文化講演会・展示会の開催

大谷雅夫先生（京都大学文学部教授）を講師に迎え、平成22年11月20日（土）、池坊お茶の水学院講堂にて、平成22年度文化講演会（演題：「万葉集うひまなび」）と併設展（「竹柏園本万葉集展示会」）を開催した。

大谷先生のご専門は、日本における中国文学・思想の受容史である。講演会では、『万葉集』を題材に、その成立過程や数々の歌の解釈などを、「うひまなび（初学）」の者、初学者にもわかり易くお話しいただき、約100名の参加者の好評を博した。

また同日開催した「竹柏園本万葉集展示会」では、佐佐木信綱旧蔵の、万葉集の諸本、江戸時代の万葉集研究書など、約30タイトルを展示した。『西本願寺本万葉集』をはじめとする万葉集の諸本の原本を系統的に展示する、国内で初めての催事である。展示会場は約130名の入場者でにぎわい、斯界でも大きな話題となった。

### (2) 「カラー復刻『主婦之友』昭和期目次Ⅲ」の寄贈

当館は、雑誌『主婦之友』の創刊（大正6年）から昭和30年までの目次をカラー復刻し、「大正期総目次」「昭和期目次Ⅰ・Ⅱ」「昭和期目次Ⅲ」として、平成18～22年にかけて刊行した。これらの目次は、当時の家庭生活や社会情勢を知る上での貴重な情報源であり、当館所蔵の『主婦之友』の利用の活性化にもつながるものである。

平成22年度は、『主婦之友』昭和期目次Ⅲを関連機関及び大学等約120機関へ寄贈した。また、国内及びアメリカの大学図書館から寄贈依頼を受け、これまでに刊行した「大正期総目次」「昭和期目次Ⅰ・Ⅱ」とあわせて寄贈した。

### (3) 美術資料(原画・挿絵・原稿・写真等)の貸出協力

#### <テレビ東京「美の巨人たち」番組制作会社に画像データを貸出>

岡田三郎助の油彩作品「婦人像」の画像を、「美の巨人たち」（テレビ東京系列にて、平成22年5月15日〔土〕22:00～22:30放送）で映像を使用するため、カラーポジフィルムを貸出した（平成22年4月）。

#### <「セーヌの流れに沿って」展へ落谷虹児作「ヴェトゥイユの風景」を貸出>

石橋財団ブリヂストン美術館、公益財団法人ひろしま美術館主催の展覧会「セーヌの流れに沿って：印象派と日本人画家たちの旅」（会期：平成22年10月30日～平成23年2月27日予定）の開催にあたり、落谷虹児「ヴェトゥイユの風景」を貸出した（平成22年10月）。

#### <坂の上の雲ミュージアムへ下高原健二作品の画像データを貸出>

同ミュージアム企画展「バルチック艦隊と真之」（会期：平成23年3月～平成24年2月）に下高原健二『坂の上の雲』挿絵原画の画像データを貸出した（平成23年1月）。

## 2-3. 事務局の活動

### (1) 広報活動

#### ① ホームページでの広報

当財団は平成 15 年 10 月の図書館リニューアル・オープンに合わせてホームページを開設した。平成 22 年度も、このホームページの情報を更新し、広報活動を積極的に行なった。

財団の設立趣旨、事業概要の説明のほかに、図書館の広報として、専門図書館部門では、利用案内、和洋雑誌所蔵リスト、テーマ別蔵書、資料保存関連リンク集を紹介した。また、古典籍・古文書部門では、利用案内、成篋堂文庫・竹柏園本の概要、冊子体所蔵目録などを紹介した。

#### ② 当館見学会の実施

##### <平成 22 年>

・7 月：(財) 日本交通公社 旅の図書館・副館長 1 名。

##### <平成 23 年>

・3 月：『婦人之友』全国友の会アーカイブズ計 6 名。資料保存対策の実施機関としての当館を見学した。

### (2) 図書館協力及び館外活動

当館は、単館での活動にとどまらず、図書館界においても、広くその役割を果たした。

#### <日本図書館協会及び専門図書館協議会の役員に就任>

平成 21 年度に引き続き、当財団事務局長が、専門図書館部会の代表として、日本図書館協会理事と、専門図書館協議会役員に就任した。

#### <専門図書館協議会私立図書館小委員会委員長に就任>

平成 21 年度に引き続き、当財団事務局長が専門図書館協議会私立図書館小委員会の委員長に就任し、委員会活動を行なった。

#### <専門図書館協議会広報委員会の委員に就任>

平成 21 年度に引き続き、当館から、専門図書館協議会広報委員会の委員として職員 1 名が就任した。平成 22 年度には、インターネット版「メールマガジン・SENTOKYO」上で「図書館・出版」等に関する新刊案内などの編集作業を行ない、会員に提供した（毎月 2 回）また、専門図書館協議会定期総会の開催にあたり、運営協力を行なった。

#### <専門図書館協議会著作権委員会の委員に就任>

平成 22 年度から専門図書館協議会著作権委員会の委員として職員 1 名が就任した。

#### <全国図書館大会分科会での発表>

平成 22 年度日本図書館協会全国図書館大会の専門図書館分科会（テーマ「専門図書館団体大集合！」）において、当財団事務局長が「専門図書館機関の現状」について概要発表を行なった。この分科会には全国から約 90 名の図書館員が参加した（平成 22 年 9 月、奈良女子大学）。



### ＜専門機関誌が当館を紹介＞

専門図書館協議会機関誌「専門図書館」242号に、安江明夫氏（元国立国会図書館副館長）が「蔵書を考え直す視点」を寄稿し、その中で当館の事例を紹介した。

### （3）文部科学省による当館の視察

文部科学副大臣の笹木竜三氏ほか、文部科学省の5名が当館を視察した。同省において日本の図書館・博物館等を対象とする非課税措置を検討するために、私立図書館の代表館として当館が視察対象に選ばれた。なお当日は、（社）日本図書館協会・事務局長の松岡要氏が同行した（平成23年2月）。

### （4）文部科学省による実地検査の実施

当財団の所管官庁である文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課による定例の実地検査が、平成22年10月26日に実施された。

### （5）管財部門の業務

当財団では、歴史的にも文化的にも貴重な資料を数多く所蔵しているため、当財団ビルの建物・設備等の維持管理には細心の注意を払っている。

平成22年度は、9階古典籍閲覧室書棚の増設、経年劣化した1階空調機の入替え工事、ビル全体の耐震調査を行なった。また、年間スケジュールに基づく点検作業の結果を踏まえ、貴重書庫の空調機及びエレベータの部品を交換した。さらに、ビル全体の破損・劣化状況の定期点検調査の結果を千代田区に提出した。

このほかに、地下ピット点検口と各階の水道管継手を補修し、電話交換機の基盤と1階電動書架の基盤を交換した。また、防犯対策の一環として、1階非常口前に門扉を設置した。さらに、平成23年3月11日の大震災により破損した揚水配管を交換した。

一方、所有ビルの劣化状況と修繕状況の調査結果を踏まえ、平成21年に引き続き、本館前の駐車場の一部修繕工事を実施した。また、別館の地下電気室のコンデンサーの故障により、コンデンサーとその付属物の改修を行なった。

### （6）公益法人制度改革に伴う移行手続きの準備

公益法人制度改革法の施行に伴い、平成22年度も継続して、専門家とプロジェクトを組み、公益財団法人及び一般財団法人への移行の可能性について、検討を続けてきた。当財団の進むべき方向性について、具体的な検討課題の洗い出しを終了した。

## 2-4. 役員会等に関する事項

### (1) 理事会に関する事項

開催月日	回数	議事事項	会議の結果
H22.6.25	第154回	(第1号議案) 平成21年度事業報告承認の件 (第2号議案) 平成21年度財務諸表及び収支計算書承認の件	可決 可決
H23.3.26	第155回	(第1号議案) 平成23年度事業計画承認の件 (第2号議案) 平成23年度収支予算承認の件	可決 可決

### (2) 評議員会に関する事項

開催月日	回数	議事事項	会議の結果
H22.6.25	第131回	(第1号議案) 平成21年度事業報告承認の件 (第2号議案) 平成21年度財務諸表及び収支計算書承認の件	可決 可決
H23.3.26	第132回	(第1号議案) 平成23年度事業計画承認の件 (第2号議案) 平成23年度収支予算承認の件	可決 可決